

## 令和7年度 かねやま福祉会事業計画

### 《基本的理念》

社会福祉法人『かねやま福祉会』は、高齢者が住みなれた地域で安心して、心豊かにいつまでも暮していただけるよう各種事業を通して、地域社会の福祉の推進、発展に寄与します。

このため、ご利用者はもちろんご家族や地域みなさん、そしてここで働く全ての職員がいつも笑顔でいられるよう、提供するサービス全般において改善を重ね、日々向上することで、信頼される存在となることを目指して歩んでまいります。

### 《事業方針》

各事業の経営目標を達成し、安定した基盤の構築を図りながら、地域包括ケアを踏まえ、行政、地域住民、関係機関とさらに連携し共生社会の実現に向けて様々な取り組みを継続する。

また、介護を含めた各種サービスの提供において、ご利用者等の「個人の尊厳」を深く認識し、その重要性のもと改めて職員一人一人が基本に立ち返り、対応していくことを事業方針とする。

### 【経営・運営】

各事業所において、目標の稼働率達成と在庫管理の徹底、経費の削減を通して、各事業所及び法人全体の安定経営を目指す。

事業所名	目 標
特養	① 稼働率 1日平均 77.5人(稼働率 96.9%)以上を目指す ② 入退所にもなう空床日数の減 ③ 入院者の減、入院日数の減による稼働率の

	<p>向上</p> <p>④ 看護・介護・栄養など多職種が連携し、情報の共有を的確に図りながら、特に個々の入所者の食事摂取状況の観察、口腔ケアの対応、拘縮予防に力を入れ、入所者の良好な健康状態を少しでも維持するとともに、不調時の際に速やかで適正な対応が取れるよう相互協力の徹底に努める</p> <p>⑤ 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p> <p>⑥ 食材料費の高騰に伴う厨房体制の見直し</p> <p>⑦ 収入における人件費率を常に考慮しながら、その中での職員体制の確保と働きやすい職場環境を目指す</p>
短期入所	<p>① 稼働率1日平均 19.0人(稼働率 95.0%)以上を目指す</p> <p>② 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p> <p>③ 食材料費の高騰に伴う厨房体制の見直し</p> <p>④ 担当部署間のタイムリーな連絡及び情報の共有と居室調整の徹底による稼働率の維持、向上</p> <p>⑤ 柔軟な対応と緊急時の受け入れによる稼働率の維持、向上</p>
かねデイ	<p>① 稼働率 1日平均 17.0人/20人(稼働率 85.0%)以上を目指す</p> <p>② 積極的な振替利用の受入れや、急な利用日の変更にも迅速に対応し利用率を上げる。ケアマネとの信頼関係の構築により、営業</p>

	<p>を強化することで、実績を確保する</p> <p>③ 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p> <p>④ ご利用者の利用目的に柔軟に対応し、ご利用者の満足度を高めることができるよう、魅力あるデイサービスを目指す</p>
よこデイ	<p>① 稼働率 8.0/10人(稼働率80%)以上を目指す</p> <p>② 関連機関への積極的な働きかけによる新規利用者の開拓</p> <p>③ 食材料費、光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p> <p>④ ご利用者の利用目的に柔軟に対応し、ご利用者の満足度を高めることができるよう、魅力あるデイサービスを目指す</p> <p>⑤ 職員、パート職員との連携と役割分担、業務量の見直しの継続</p>
居宅	<p>① 要介護者計画作成数85件/月以上を目指す</p> <p>② 計画的で遅延なき事務処理の実施と的確な請求データの完成</p> <p>③ 利用者、家族状況の適切な把握をもとに、利用者や家族の意向を優先しすぎず、専門家としての知識・経験によるアドバイスを踏まえたサービス計画の作成</p> <p>④ 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p>
包括	<p>① 総合事業、介護予防計画作成数40件/月</p> <p>② 関係機関との更なる協力、連携を通じて、金山町における包括ケアシステムの浸透、</p>

	<p>構築目指し、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう利用者及び家族を支援していく。</p> <p>(1) 認知症対策</p> <p>中心的立場で積極的に取り組み、早期発見、早期対応を目標に認知症関連の各事業や会議等を通して適切な「医療・介護・福祉サービス」へとつなげていく。</p> <p>また、認知症に関する正しい知識の啓発により、認知症への社会の理解を深める。</p> <p>(2) 地域ケア会議</p> <p>ケア会議の中で取り上げられる個別のケースの背後に潜在する地域課題を明らかにし、関係機関と協力しながら取り組むことで地域作りにつなげていく。</p> <p>事例検討を取り入、</p> <p>(3) 在宅医療・介護との連携</p> <p>地域の医療機関や各介護事業所の状況を把握し、それらを的確に組み合わせ補完することで住み慣れた地域で可能な限り暮らし続けることができるよう取り組んでいく。</p> <p>(4) 介護予防</p> <p>多くの住民が介護を必要とせず、日常生活を送れるよう各種事業や啓発活動を通して健康な状態を維持、継続できるよう取り組む。</p> <p>(5) 総合相談支援</p> <p>高齢者やその家族からの相談を総合的に</p>
--	---

	<p>受け付け、状況を把握しながら、関係機関と連絡を密にし、その解決を図る。</p> <p>(6) 権利擁護業務 高齢者に係る様々な権利侵害から高齢者の尊厳を保持し、安心していきいきとした暮らしが続けられるように、中核機関と連携、相談をしながら対応、支援していく。</p> <p>③ 光熱水費や燃料代、消耗品等の高騰による各経費の削減の継続</p>
--	--

### 【経営】

感染症や世界情勢の影響を大きく受け、光熱費や食材料費・介護備品等の経費が増加している。各事業所の経営はますます厳しくなることが予想される。社会や地域の期待の応えていくためには、より一層法人の経営・運営状況を的確に把握し、引き続きスピード感をもって健全な経営及び運営に努めていく。

また、特別養護老人ホームの増床後、10年が経過したことから、機械設備等の老朽化は避けられず、修繕・交換等を計画的に進めていく。

### 【ご利用者の人権の尊重】

全事業所での満足度調査を実施し、法人の現状をしっかりと把握しながら、ご利用者を尊重する風土がしっかりと定着するよう、接遇向上委員会を中心に改善すべき項目について取り組む。

また、高齢者虐待は、高齢者の尊厳を失わせる重大な問題であり、決してあってはならないことであるため、入所者の尊厳を守ることを徹底する。些細なことが積み重なって大きな影響を与えることもあるため、職員がチームで対応するこ

とで、お互いの対応の仕方を検証しながら、取り組んで行く。

また、公正・中立な第三者機関による第三者評価を取り入れ、自己点検を継続し、職員が施設の現状を同じ認識で把握できるように取り組む。

### 【安全】

- (1) 予見可能な介護事故等の防止、特に介助中の事故をゼロにする
- (2) 事故の中でも、最も件数の多い、転倒事故を減らす
- (3) 事故後の状態観察と的確な判断および家族側に立った容態の適時連絡
- (4) 様々な感染症予防のための職員の健康管理の徹底と発症時の的確な対応で感染拡大を防ぐ
- (5) 送迎、受診、通勤等における安全運転と事故の防止
- (6) 防災・感染対策としては、ご利用者や職員の安全を確保するとともに、事業を継続するためのBCP（事業継続計画）を活用し、訓練や研修を充実させる。

### 【委員会活動の活性化】

選出された各部署からの委員が目的を踏まえ、自覚と責任をもって積極的に委員会活動に取り組む。また、新たに決められた項目などをまず委員がよく理解し、率先して実践しながら、情報や決定事項を繰り返し部署内に伝え、浸透させることで委員会の活動をより有意義なものとする。

新たな「生産性向上委員会」においては、定期的に業務の見直しを行う。これまでの慣例ややり方にとらわれず、各事業所、各部署で業務量の削減や、勤務時間を見直し、効率的な業務の流れを作る。

また、光熱水費・燃料費、消耗品等の高騰により収支状況が厳しい中、少しでも経費を削減できるよう、工夫して取り組

んで行く。

### 【人員体制の確保と職員成長のための人材育成】

収入に係る人件費の比率、年齢構成、育休者、特定技能1号生の確保により、各事業所・各部署の安定した人員体制を確保する。

#### (1) 特定技能1号生の定着

現在、勤務している特定技能1号生の勤務が軌道に乗ってきていることから、今後も、一定人数の外国人労働者を確保するため、早めの対応を継続していく。

#### (2) 人材の育成

職員の希望する研修の受講、外部講師による専門的な研修会の実施など、職種別、階層別の教育体系を通して、個々のキャリアアップと成長が実感できる職場を作っていく。

前年度同様オンライン研修を中心に、状況を見ながら外部講師による専門的な研修を取り入れ、多くの職員が受講できる環境を作り、知識と技術を高めていく。

#### (3) 長く勤務してもらえるような体制、環境の充実

職員ひとりひとりのライフスタイルに合わせ、多様な雇用形態・勤務時間に柔軟に対応しながら、安心して長く働くことのできる職場環境を目指す。

### 【地域貢献】

(1) 地域住民への車両貸出し事業の継続

(2) グラウンドゴルフ大会の開催

## I 特別養護老人ホームかねやまホーム 事業計画

### 《基本事項》

入所者はもちろんご家族からも安心と信頼を感じていただける

ようなる施設となることを目指し、職員一人一人がご利用者に寄り添いながら、『その人』を知り、『その人らしさ』を感じて、やさしさと心温まるサービスを提供する。

このため、法人の目標を基本に施設、各部署、個人が目標を定め、目標の達成を目指して協力しながら業務にあたる。

### 1. 業務への意識レベルの向上

①日々の業務、委員会活動など自分の役割に責任感を持って最後まで全うする

②できない理由を考えるのではなく、どうしたら上手くいくか、達成できるかを考え、「創意工夫」と「前向きな発想」を心がける。

③新たに「生産性向上委員会」での業務見直しを行い、前向きな意見を出し合うことで、効率的な業務の流れを作る。特に、今年度は、厨房体制において、大幅な改善を行う。

④家族の想いをくみ取った配慮ある対応と連絡を継続する。  
特に、新規入所となられた方や、体調が思わしくない方のご家族は、状態を心配されているため、施設でのご様子をきちんとお伝えする。

### 2. 安全への取り組み

#### 【感染】

様々な感染症については、発症時に的確な対応ができるよう、職員個々のレベルアップを図る。施設内で感染が発症すると、隔離・待機の期間が長くなり、職員・ご利用者共に負担が大きくなることから、施設内の感染をゼロにすることができるよう、職員個々が意識を高く持ち、情報を共有しながら、感染予防を行う。

また、これまで通り全職員、ご家族、地域の方々の協力を得ながら、感染防止に日々継続して取り組み、感染のない安心な生

活環境を目指す。

#### 【事故の防止】

- (1)安全のためのルールを守り、職員の安易な判断で起こる事故の防止するために、「あたりまえ」のことを「確実」に行う
- (2)転倒アセスメントシートの有効活用により転倒事故を防ぐ
- (3)転倒事故後の状態観察と的確な判断および家族側に立った容態の適時連絡
- (4)事故後の改善事項が有効にできているかの検証を行う
- (5)インシデントレポートを事故予防に生かしていく
- (6)指差呼称が業務の中で必要な時に行われているか再確認

### 3. 入所者の人権の尊重と接遇力の向上

ご利用者やご家族からのご意見、ご要望をきちんと受け止め、改善が必要な点については、見直しと実行をスピーディに行うことで、ご利用者、ご家族との信頼関係を深めていく。また、役職者が自分の部署の現状をよく把握し、積極的に指導を行い、部下の気づきとご利用者を尊重する風土を作り上げていくことで全体の接遇レベルの向上を図っていく。

### 4. 入所者の健康管理と職員対応の意識向上

入所者の重度化にともない、入所後に体調を崩される方が多くなっていることから、今まで以上に看護・介護職員が情報を共有することで、嘱託医への的確な報告によりスピーディに指示を仰ぎ、早めの対応を行う。

看取りとなられる方が、年々増えてきており、適切な時期でのご家族への説明を行うことで、人生の最終段階におけるケアを進め、穏やかな最期を迎えることができるように取り組む。

また、今まで重点的に取り組んできた口腔ケアは、肺炎予防の

ため健康サポート委員会口腔部門を中心に、重度のご利用者の全身の拘縮予防については、生活ケア委員会介護技術部門で継続して取り組む。

### 5. 介護技術習得への取り組みと個別ケアの継続

今年度も、介護技術の定期的な講習会を実施し、楽技介護術の習得に努める。重度化しているご利用者の介護において、安心・安全に対応できるよう職員一人一人の意識を高くする。

また、日々の生活への刺激となるような行事の運営企画や、ご利用者・ご家族の生きがいや楽しみとなる個々の取り組みを行う。特別なことではなく、日常の業務の中での会話や気づきを大切にしながら、その人の気持ちに寄り添えるケアを目指す。

- ① 定期的なアドバイザーによる講習会の継続
- ② 介護技術施設内講習会の開催
- ③ お楽しみプロジェクトの継続

#### 《重点事項》

### 【総務・生活相談部門】

#### 1. 介護収入の確保及び各種経費削減の継続

- ① 各事業所の目標稼働率を常に意識して、各部署・担当者と情報共有・新規利用者増等の取り組みを行い、安定した介護収入を確保する。
- ② 物価高騰が続いているため、前年度以上に照明器具の点灯消灯、適正な温度調整による冷暖房器具の使用管理、安価物品購入等、経費削減の意識を高く持ち継続徹底を行う。
- ③ 建物・設備機器等の経年劣化等に伴い故障の頻度が増えているため、日常業務において不具合の早期発見、また、各業者による定期点検及び異常等の早期検知対応を図り、計画的な修繕及び突発的な修繕支出を抑える取り組みを行う。

- ④ 物品購入・修繕・研修受講等、各種補助金・助成金の情報収集と申請・有効活用の継続を積極的に行う。

## 2. 安定した事業継続と質の高いサービスの提供

- ① BCP（事業継続計画）の適時活用を行い、防災・感染症・日常業務の対応により、実施安定した事業継続に取り組む。
- ② 多様化する業務を適正かつ迅速に対応できるよう、業務に対する意識を高め業務改善を行う。また、整理整頓による迅速かつ無駄のない的確な対応を行う。「報・連・相」の重要性から他部署・各担当との連携協働を図り、安定した質の高い業務・サービス提供を行う。
- ③ 待機上位者の状態把握はもちろん、介護度や認知度、ご家族の状況や意向等も随時確認していく。また、先を予測し「創意工夫」と「前向きな発想」で空床日数を減らしていくとともに、老健相談員や、病院ワーカー、ケアマネジャーとの連携や、情報交換を心がけていく。
- ④ 短期ご利用者に関しては、新規ご利用者の開拓に加え、緊急利用等ご利用者やご家族の意向に沿った柔軟な対応と、安心できる日常介護の提供を通して利用日数を確保し、稼働率を伸ばす。
- ⑤ これからも安定した事業の継続と、車両貸出やグラウンドゴルフ大会の開催等の活動を通して、地域住民との交流や福祉への貢献に取り組んでいく。

## 3. 安全への取り組みと安心できる暮らしの提供

- ① 様々な感染症についての正確な情報や知識を持ち、施設内での感染防止と、感染発生時の的確な対応に取り組んでいく。また面会や外出に関して、状況に合わせた感染予防対策をしながら実施し、慰問等の活動も進めていく。
- ② 事故防止に関しては、転倒事故を減らすことができるよう入所前、入所後も継続して「転倒要因アセスメントシート」を活用し、

多角的な視点で原因を探り再発防止につなげていく。また入所契約時にはご家族への丁寧な説明を心がけ、リスク面へのご理解をいただくと共に、日頃の信頼関係構築に努める。

- ③ 他職種と協働して身体的、医療的、リスク的な側面を総合して思案し、計画書に反映させていく。ご利用者の「できること」に目を向けた、具体的な日常生活リハビリの実践を協働して行っていく。ご利用者のお気持ちを考えながら、できたことを一緒に喜べるよう取り組んでいく。
- ④ 受診や入退院の際の病院との連絡調整、運転手の手配等、迅速な対応を行う。また入院後も定期的に病院側、ご家族と連絡を取り合い、状況の把握と回復後のスムーズな退院対応につなげる。
- ⑤ BCP（事業継続計画）を活用しながら、職員への充実した訓練・研修を行い、防災や感染症への的確で迅速な対応、利用者の安心安全な生活の継続維持に取り組む。

## 4. 人材育成と働きやすい職場環境について

- ① 今年度アンケート調査を実施し、ご利用者ご家族からのお声を頂く事で気付くことが出来る改善点を、毎日のご利用者への対応へとつなげながら施設生活における安心と心身の安全を確保していく。また、接遇意識を通して、職員一人一人がご利用者の人権擁護に対して職業倫理感を定着させ、高齢者虐待等の防止に一貫して取り組む。
- ② オンライン(動画配信)研修の積極的活用・新規情報収集を行い、全職員の希望研修及び必須研修内容が充実した受講により、個々のスキルアップと業務改善に取り組む。また外部講師による施設内研修を行い、実践的な技術と知識向上を図る。
- ③ 要介護度(特に寝たきり度)の高いご利用者の日常介護についても、拘縮予防等ご利用者の「今日出来ている動作」が健やかに継続されるよう寄り添える介護技術の浸透に向けて、介護技術委員会、及び役職者が中心となって施設全体の技術の向上を目指す。

- ④ 特定技能1号生が介護についての知識や技術を学びながら、仕事にやりがいを持って取り組んで行けるよう、生活面や日本語の習得、状況に応じて受診や送迎などのサポートを行っていく。
- ⑤ 安定したサービスの提供が継続できるよう、あらゆるルートを活用して採用につなげ、職員の充足をはかる。また、長く務めてもらえる魅力的な職場作りを目指し、業務の改善に取り組んでいく。

## 【看護部門】

### 1. ご利用者の健康管理

- ① ご利用者の良い健康状態が少しでも維持出来るよう日々の状態観察を行うと共に各職種と情報を共有し、体調不調時は嘱託医へ報告、指示を仰ぎ、迅速で適切な対応に努める。
- ② ご利用者の嚥下状況や食事、水分量を観察し、少しでも口から摂取が継続出来るよう食形態の見直し等他職種と協力して取り組む。また、統一した口腔ケアを継続し誤嚥性肺炎や疾病の予防に努める。
- ③ 看取りとなるご利用者が増えているので穏やかな最期を迎える事が出来るよう各部署と連携し、ご利用者、ご家族に寄り添ったケアに取り組んでいく。

### 2. 安全への取り組み

- ① 様々な感染症の発症を防止する為職員の健康管理を徹底し、基本的な感染対策に継続して取り組む。
- ② 職員1人1人が感染に対する意識と判断力を高く持ち情報を共有しながら予防に努める。
- ③ 感染発症時は各部署と協力し早期に的確な対応を行い拡大防止に努める。
- ④ 薬の入れ間違いや誤薬事故を防止する為、決められたルール

をきちんと守り実践する。インシデントレポートも活用し情報の共有と再発防止に努める。また、事故発生後は改善事項が有効に出来ているかの検討を行っていく。

### 4. 職員の対応力と意識レベルの向上

- ① ご利用者の人権を尊重し配慮と敬意を忘れず丁寧に対応する。
- ② ご利用者、ご家族からの意見、要望をきちんと受け止め、改善点は見直し実践していく事で信頼関係を築いていく。
- ③ ご家族の想いを汲み取った配慮ある対応と連絡を心掛け、体調や施設での様子を伝えていく。
- ④ 各委員会や担当の役割に責任を持ち工夫と前向きな発想で日々の業務に取り組む。また、効率的に業務が進められるよう定例会で業務の見直しを行っていく。
- ⑤ 物品の在庫管理、節電、節水を各職員が意識し、消耗品、光熱水費等の経費削減に継続して取り組む。

## 【栄養部門】

### 1. 食の楽しみを持ち続けられるような食事の提供を行う。

- ① 食べることで季節を感じていただくことなど、各種行事はできる範囲で行いたい。目でも楽しんでもらえるよう、喜びのある献立作成を行いたい。
- ② 盛り付けや配膳に対し、忙しくても作業とならず、見た目良く盛り付けを行うなど、常に美味しい食事作りを心がける。

### 2. 喫食率が上がるような工夫を行う。

- ① ご利用者もますます高齢となり、食事摂取量の低下や、吸収が悪くなっているご利用者が増えており、低栄養や体重減少が見られる方が増加している。少量で栄養価の高い食品を取り入れるなど、医師に栄養状態の確認を行いながら検討していく。

② 歯科医師と連携し、ご利用者の口腔内の状態に合わせた食事形態の変更について迅速に対応していく。義歯の不具合について職員が早めに気づくことが出来るよう、口腔ケア時の口腔内確認をしっかりと行う。

### 3. 衛生管理に十分注意し、安全な食事を提供する。

- ① 衛生管理に対する意識を高く持ち、体調管理をしっかりと行い、感染症を持ち込まないよう一人ひとりが気を付け、安全な食事を提供する。
- ② 緊急時（災害、感染症、食中毒）でも、食事の提供が円滑にすすめられるよう必要物品（食材、使い捨て食器等）を備蓄し、非常時を想定した食事提供の訓練を実施すると共に、緊急時に備え、非常食の保管場所や提供方法を全職員に周知する。

### 4. 厨房体制を見直し、物価高騰の影響を受け食事の原材料費も上がっているが、適正値に近づけられるよう努力する。

- ① 完全調理済み食品の使用を増やし、人件費と水道光熱費の削減も行いながら、食事の単価を抑えられるようにする。
- ② 生産性向上委員会を主に厨房の勤務体制を見直し、早番の勤務時間を遅くするなど、職員が働きやすい環境を整えていく。

## 【 養 護 部 門 】

### I ひだまり・こもれば棟

#### 1. ご利用者一人一人の「その人らしさ」の追求

- ① ご利用者一人一人に目を向け、関わりを深めていきながら、その人に合った生活リズムを整え、日々の生活の過ごしやすさや、レクリエーションを工夫することでQOL向上を目指していく。
- ② ご利用者の想いや願いを叶えるために「プロジェクト」で実施し、家族や他職員にも叶えた想いを共有し、次に繋がるイベン

トとして継続していく。

- ③ ご家族への連絡を定期的に行い、主の状態の変化や参加しているイベントなどを把握してもらう。面会時には、接遇を意識した態度で施設の様子を丁寧に伝えていく。

### 2. 健康の維持と安全な環境の整備

- ① 施設内の換気・消毒等の感染対策を継続し、ご利用者の少しの変化も見逃がさず、多職種連携して情報共有に努め、早めの対応が出来るようにしていく。また、職員自らの体調管理に気をつけ感染症を持ち込まないようにする。
- ② ご利用者の口腔ケアの強化と摂食嚥下の観察を行い、誤嚥性肺炎を防止する。陰部洗浄を継続し尿路感染症を防止する。マッサージや皮膚ケアを継続し褥瘡を防止する。毎日のケアを通し状態の変化を多職種連携して情報共有し健康維持につなげていく。
- ③ インシデントレポートを活用し定例会で意見交換を行い、事故を未然に防げるよう対策と環境整備を行っていく。万が一事故が発生しても最小限にとどまるような対策が出来るようにしていく。ご家族への連絡は迅速に行い、その様子についてこまめな連絡を行う。事故の再発防止策が徹底されているか確認していく。誤薬事故を防ぐ為に呼名と職員同士での確認を協力して行う。

### 3. 介護職員の育成強化

- ① チューター制度を活用し、特定技能1号生や新人職員とのコミュニケーションを活発にしながら、計画的な指導・育成ができるよう環境を整え職員全体で協力して行く。
- ② 各職員が仕事をしていく中で自分の意見をしっかりと持ち、職員同士が協力して効率よく業務に取り組んでいく。
- ③ 委員会活動では、委員が計画から実行まで報連相を怠らず、他職員の協力体制ができるよう申し送りノートを使って周知し、最後まで責任を持って取り組む。介護技術では、委員を中心に定期

的に講習会を開催し棟全体の技術のレベルアップにつなげていく。

## II そよかぜ棟

### 1. ご利用者に寄り添い敬意を持って処遇にあたる

- ① ご利用者の人権を尊重し、穏やかで安心した生活が送れるよう、心を込めて親切丁寧なケアを提供する。
- ② ご利用者やご家族の想いが実現できるよう、日頃からコミュニケーションを図り、率直なご意見やご要望を頂けるように取り組む。
- ③ ご利用者の生活の様子を、定期的にご家族にお知らせする。また、配慮ある対応と連絡を心がけ、ご家族との信頼関係を構築する。

### 2. 安全な生活環境を整える

- ① 様々な感染症の予防策を徹底し、職員及び家族の体調に関して情報を共有する。職員自ら健康管理の強化に努め、ご利用者の健康を守り日々状態を観察する。
- ② 日常的に発生する「ヒヤリ・ハット」を予見する力を身につける。介助を行う上で基本的な動作や決められたルールを守り、骨折や誤薬などの重大な事故にならないよう、職員一人一人が慎重・確実に取り組む。また、インシデントレポートを活用し、決定事項の徹底と情報共有に努める。
- ③ 口腔ケアの重要性を理解し、他職種との連携を図り、病気の予防に努める。
- ④ 介助中の事故が起こらないよう、介護技術の習得と向上に努める。また、ご利用者個々の状態に合わせた、個別ケアの取り組みを継続する。技術委員と協力し、定期的な「介護技術講習会」の開催を実施する。

### 3. 棟内の活動を円滑にする

- ① 棟の業務・各委員会・係の役割に責任を持って取り組む。「報告」「連絡」「相談」を徹底すると共に、職員間のコミュニケーションを図りチームワークを高める。
- ② ご利用者の希望や体調に合わせた外出や、おやつ作り・誕生会などのお楽しみの取り組みを継続する。
- ③ 業務の優先順位を考え、人的・物的資源を有効に活用し、随時見直しや工夫を行う。また、水光熱費を意識し、無駄のないよう取り組む。

## III ほのぼの棟

### 1. ご利用者のご家族の「生きがいや楽しみ」に繋がるケアをする

- ① ご利用者やご家族の「想い」を知り、「その人がその人らしく」生活できる個別ケアとサービスの提供をする。介護技術委員と役職者が中心となり「楽しみ」に繋がる個別ケアの取り組み計画と、ご利用者と職員が共に「安全で身体が楽な介護」が出来る様介護技術の習得・向上を目指して取り組む。
- ② 職員の接遇レベルを向上し、ご利用者の尊厳を守れる対応（態度や言葉遣い）に努める。ご利用者の身体状況やご家族の立場に立った「思いやりと優しさ」を持ちチームで対応していく。
- ③ ご家族には適時・継続的な報告をする。看取りや入退院後・体調不良時などには他職種と連携し、タイムリーな連絡でご家族の安心を図る。

### 2. ご利用者が「安心で安全」に生活できる環境を作る

- ① インシデントレポートとアセスメントシートを活用し、職員の判断ミスによる事故や介助中の事故等の「防げる事故ゼロ！」を目標に安全の為のルールを守りながら確実な対応に努める。
- ② 食事摂取状況の観察や口腔ケアの知識・技術の習得で「誤嚥や肺炎」を予防していく。また褥瘡予防の対応を継続し、ご利用者

の長期入院による空床日数減に繋げる。

- ③ さまざまな感染症に対しては、今まで通りに「感染予防を意識した行動」で施設に感染を持ち込まないことを徹底する。

### 3. 職員のスキルアップと職場環境を改善し向上に努める。

- ① 働きやすい職場を目指し「職員の負担軽減」と「介護の質の向上」の為に「業務改善」を意識し実行していく。
- ② 各職員が自分の担当する委員会や係りの目的や役割を理解し「自分が求められている事やるべき事」に責任を持ち取り組む。
- ③ 定期的に棟内の整理整頓をする。物品備品の在庫管理・節電に取り組み光熱水費や経費の削減を継続する。
- ④ 特定技能1号生が、介護の仕事に早く慣れやりがいを感じて務められる様、チューターと棟職員が共に協力しながら技術指導・生活指導に取り組む。

## II かねやまホームデイサービスセンター

### 《基本事項》

住み慣れた地域でご本人、ご家族の意向に沿った暮らしを実現するために、潜在的なニーズを把握して必要とされるサービスが提供できる事業所づくりに努める。また、随時、業務の見直しと改善を実行し、効率化の向上と共に安定した運営を目指す。

### 《重点事項》

#### 1. 安定した利用実績のための取り組み

- ① 新規のご利用者を獲得するために、各支援事業所へ積極的に働きかける。
- ② 各支援事業所との連携を強化して、個々の状態に合わせた適切な利用回数の提案やキャンセル待ち、利用日振替の調整により利用率の向上を図る。

#### 2. サービス内容の充実

- ① ご利用者の利用目的に柔軟に対応し、ご利用者の満足度を高められるようにしていく。
- ② 訓練プログラムの工夫より、楽しみや充実感を持って利用して頂けるように企画立案をしていく。
- ③ 認知症のご利用者が安心・安全な状態で過ごせるよう、対応の工夫や環境の整備を進める。
- ④ 社会参加を目的に地域で開催される展示会への出品を継続し、個々が創作意欲を持ち続けられるようにしていく。

#### 3. 経費削減の取り組み

- ① 光熱水費や食材料費、燃料代、消耗品費等を意識して業務にあたり、経費の削減に努める。
- ② 適切な人員配置や業務の効率化を図れるようにしていく。

## III よこたデイサービスセンター

### 《基本事項》

ご利用者が、住み慣れた地域・ご自宅で安心し、心豊かな生活が送れるよう支援する。

活動内容、業務内容の工夫と改善に取り組みながら、利用目的に柔軟に対応し、ご利用者の満足度を高めることができるよう、魅力あるデイサービスを目指す。また、各経費削減についても常に意識し改善に努める。

### 《重点事項》

#### 1. 安定した利用実績のための取り組み

- ① 稼働目標を常に意識し、関連機関への働きかけを継続して新規利用者を開拓する。

- ② 利用者個々の利用目的に合ったサービスが提供できるよう、個別活動、集団活動ともに内容の工夫で満足度向上を目指す。
- ③ 意見や要望を頂戴しやすい関係づくりをして現状を把握し、改善していくことで満足度向上を目指す。

## 2. 業務内容改善の取り組み

- ① 食材費、光熱費、燃料代、消耗品等の高騰を職員全員で常に意識して、経費削減に向け声を掛け合いながら業務にあたる。また、整理整頓や備品管理の徹底を継続することで、無駄のない備品購入や、備品を大事に使用しながら業務にあたる。
- ② 送迎方法や各行事、各活動の取り組みに対しての工夫を継続し、さらに無駄を省くことで業務の時間短縮と業務量の見直しを図る。
- ③ 整理整頓や、業務の時間短縮で得た時間を有効活用して、利用者満足と働きやすい職場づくりを目指す。

## 3. 安全への取り組み

- ① 事故防止において、防げる事故と防げない事故を確実に把握して、職員全体で防げる事故をなくす。また、あたりまえの事を確実にを行うよう職員全体で声を掛け合い、安全な取り組みが出来ているかを確認し合う。
- ② 感染症対策においては、発生が予想される時期、予防期間に口頭連絡や文章での伝達を強化して、利用者、家族ともに協力体制を継続してもらう。

# IV かねやまホーム居宅介護支援事業所

## 《基本事項》

介護が必要となられた要介護者に、適切な介護サービスを提案し

活用していただくことで、生活に対する不安を少なくし、住み慣れた地域での生活が継続できるよう支援する。

行政機関や医療機関、サービス事業所や家族と連携し、ご本人の尊厳保持につながるよう支援していく。

## 《重点事項》

### 1. 自立生活の実現

- ① ご本人の思いや望む生活の実現に向け、体調や環境を適切に把握し、必要な介護サービスを提案し援助する。
- ② サービス事業所や家族と連携し、悪化予防と現在出来ていることが継続となるようサポートしていく。

### 2. 医療との連携

- ① 病状については医療機関と情報を共有し、適切な介護サービスの調整活用により、体調の維持と悪化予防につながるよう援助する。
- ② 入院時には在宅での介護サービス利用状況等の情報を伝え、退院される際には医療機関より病状や状態の情報をいただくことで介護サービスの調整を行い、在宅生活への不安を少なくできるよう援助する。
- ③ ショートステイ利用を希望される方も増えていることから、事業所と連携を取りながら対応し支援していく。利用中に訪問診療を受けるケースも増えているため、関係機関との連絡や調整を行っていく。

### 3. 信頼関係の構築

- ① 今後も感染症に対する意識を高く持ち、自身の体調管理や、適切な訪問時間と感染対策に努める。また、ご利用者・ご家族の健康保持を働きかけていく。
- ② 分かりやすい説明を心がけ、ご利用者やご家族の意向を確認し

援助していく。電話連絡を有効に活用し、丁寧な援助ができるように支援する。

#### 4. 事務処理業務の適正化

- ① 専門職としての知識と経験をいかしたサービス計画の作成や相談への対応を行い、ご利用者やご家族、関係機関との調整についても適正化な業務時間での実施を目指す。
- ② 光熱水費や燃料費の経費削減を意識し、経費節約につながるよう業務にあたる。

### V 金山町地域包括支援センター

#### 《基本事項》

高齢者が住み慣れた地域で、安心した暮らしが継続できるよう、包括的、継続的な支援を行い、関係機関と協力、連携し包括ケアシステムの浸透、構築を目指す。

#### 《重点事項》

##### 1. 認知症対策

- ① 認知症になっても、地域で自分らしく暮らし続ける事ができるよう、早期発見、早期診断、早期対応を目標とし、各事業や会議等を通し、医療・介護・福祉サービスに繋げていく。
- ② 自宅訪問やほっとカフェ、地区の集まり等で、認知症についての啓発活動を行い、正しい知識を持ち、認知症の人や家族が安心して生活できる町作りに努める。

##### 2. 地域ケア会議

- ① 関係機関と利用者の状況を共有し、困難ケースをほりおこして事例検討を実施し、専門職の意見をもとに個別課題解決に努め、ケースの背後に潜在する地域課題を発見し地域課題解決に取り

組んでいく。

##### 3. 在宅医療・介護との連携

- ① 医療機関、介護事業所の情報を把握し、連携しながら適切な在宅医療、介護サービスを組み入れ、住み慣れた地域で可能な限り暮らし続ける事ができるように取り組んでいく。

##### 4. 介護予防

- ① 住民が介護を必要とせず、日常生活が継続できるようにしていく。また、介護状態にあっても、悪化させない、改善する事を目指し、生きがいをもって生活できるように、各事業や啓発活動に取り組んでいく。
- ② 地域リハビリテーション事業を通し、専門職から指導、助言を受け、集まりの場に出向き指導し、住民が主体的に実施できるように指導していく。

##### 5. 総合相談支援

- ① 高齢者本人、家族、関係機関等からの相談を総合的に受け、状況を把握しながら、関係機関と連絡を密にし、医療、介護、福祉、各制度等も活用しながら解決に努めていく。

##### 6. 権利擁護業務

- ① 高齢者や障がい者に係る権利侵害から尊厳を保持し、安心していきいきとした暮らしが続けられるよう、中核機関と連携し相談しながら対応、支援をしていく。また、権利擁護について知識を高め、成年後見制度利用促進のための啓発活動をしていく。